

令和7年3月10日
ねづやま夢の学び舎
世田谷区立梅丘中学校
校長 石綿 健一郎
学校関係者評価委員会事務局

令和6年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

1 学習指導について

予測困難なこれからの社会に主体的にかかわり、自分の人生をよりよいものにする「生きる力」を身に付けさせるために、「せたがや探究的な学び」を基にした授業改善に取り組んだ。「教える」指導から「学ばせる」指導への移行を促進し、生徒が相互に自分の考えや意見を伝える場面を多く取り入れた。また、教員相互の授業観察を行うことにより、教科を超えて、共通の視点を持って授業改善を進めた。また、自主学習アプリの活用を促進し、生徒個々の学習状況や達成状況に合わせた学習に取り組む機会を作り、基礎・基本から発展的な内容まで、個別最適な学びの実現を図った。

これらの取り組みの結果、学校関係者評価アンケートにおける「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている。」生徒の肯定的評価が93.6%になった。

2 心の教育について

すべての学年において「豊かな人間性」を育む教育活動を計画的に行ってきた。道徳授業地区公開講座では全学年が共通したテーマ「豊かな心をもつ～互いに認め合い、自他を大切にしよう～」を設定したうえで授業を行うとともに、講師を招聘して講演会を実施し、道徳的価値の理解を深めることができた。また、保護者、地域の方々の授業参観やその後の協議を通して共通理解を図ることができた。

学校関係者評価アンケートにおける「わたしは、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他人を接している」生徒の肯定的評価は91.0%だった。

3 地域社会との協働について

ねづやま夢の学び舎（松原小学校・代田小学校）との連携活動を促進し、小学校の「運動会のお手伝いボランティア」の活動や「朝のあいさつ運動」を実践した。また、地域と連携した「避難所運営訓練」や「浴衣着付け体験」、近隣高等学校と連携した「ダンス指導」等を総合的な学習の時間の授業として行った。また、学校の教育活動を学校だよりや学校ホームページで紹介し、生徒の自己有用感の向上に努めた。

学校関係者評価アンケートの「地域の人材や施設を教育活動に活かしている。」の地域の肯定的評価は87.5%だった。